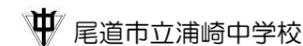


| | | |
|--------|--------------|--|
| 学校教育目標 | 「未来を生きる力を育む」 | 〈育む資質・能力〉 基礎的基本的な知識・技能 × 「主体性」「協働性」「創造性」 |
|--------|--------------|--|

| | | | |
|---------|---|--------|--|
| a ミッション | 令和7年度に期待したいこと（スクールミッション）／尾道市教育委員会 地域力を生かし「オール浦崎」で取り組む 主体的に学ぶ力の育成 | a ビジョン | 本校に通うすべての生徒が、自分の人生をしあわせに、そして希望をもって歩んでいけるよう、「未来を生きる力」を育む教育を目指す。 |
|---------|---|--------|--|



| 評価計画 | | | | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | | | 改善計画 | | | |
|------------------------|-----------------------|---|--|-------|-------|-------|-------|---------|--|--------|------|---|--|---|
| b 中期経営目標 | c 短期経営目標 | d 目標達成のための方策 | e 評価指標 | f 目標値 | 7月 | 1月 | h 達成度 | i 評価 | j 結果と課題の説明 | k 二次評価 | | | l コメント | m 改善案 |
| | | | | | g 達成値 | g 達成値 | | | | イ | ロ | ハ | | |
| 学んだ知識をもとに「生き方」まで学び育む学校 | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | <ul style="list-style-type: none"> ■多様な学びの選択肢のある授業 生徒一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度などに応じて、選択肢のある教材の柔軟な提供や、個別の支援により基礎的・基本的な知識技能の確実な定着を図る。 ■学ぶ意欲の向上と知識・技能の定着「まなびチャレンジ」 試験期間中の6時間目は、各教科の目標達成に向けて、自分なりの計画と、自分なりの方法で学びを進め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。 ■自立した学び手の育成「マイプラン学習」 各教科の一部の単元において、自ら学習計画を立て、多様な学習材やICTの活用などによる学習方法により、自ら調整を図りながら学びを進める力を育成する。 | <input type="checkbox"/> 全国学力学習状況調査・標準学力調査（学校独自の調査を含む）において、正答率が全国平均正答率を上回った生徒の割合 | 50%以上 | 39% | 43% | 78 | C | <ul style="list-style-type: none"> ○成果指標として掲げた「全国平均を上回る生徒の割合50%以上」に対し、本年度の結果は43%に留まった。基礎・基本の習得には一定の成果が見られたものの、応用力や活用力を問う問題において、生徒一人ひとりの定着状況の差が顕著に表れる結果となった。今後は、画一的な指導のみならず、ICTを効果的に活用するなど「個別最適な学び」の充実を図り、個々の習熟度や学習課題に応じたきめ細やかな指導を徹底することで、学力層の底上げと定着の平準化を加速させることが急務である。 ○目標値80%に対し、実績値98%と非常に高い達成率を示した。生徒が自分の進度や理解度に合わせて学習内容を選択・調整する「マイプラン学習」が定着し、教師に頼り切るのではなく、自らリソースを選び取り、試行錯誤する姿が日常化している。こうした自立した学習態度の育成における一定の成果は、主体的・対話的で深い学びの土台となっている。 | 9 | 0 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の平均が低いので、対策が必要。 ・達成値が高いことは良いことだ。 ・目標設定が低いのではないかと。個別最適な学びの取組が良い。 ・マイプラン学習の定着が図れているので、そこから一人一人の課題をさらに深めることで目標を達成できると思う。 ・マイプラン学習の定着が良いことだが、生徒みんながすぐにはできないと思うので、個々の習熟度に応じたきめ細やかな指導をお願いしたい。 ・マイプラン学習の取組を通して自ら学びを工夫し調整していくことについては、成果が出ていると思う。 ・自分自身で考えて学習し、自分の弱い部分・単元を理解することは大事。 ・学校教育目標を実現するための土台となるのが基礎的基本的な知識・技能の定着にあると思う。時間はかかると思うが、卒業までに身に付け、入試に向かってほしい。 ・基礎学力の底上げが課題として明確なので、そこに時間をもう少しかけてほしい。 ・基礎学力向上については、まだまだ伸びしろがあると思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ■基礎的・基本的な知識・技能の定着 授業改善による「学びの質」の向上に加え、定着に向けた「学びの量」を確保する。ICTの活用により個々の学習履歴や習熟度を的確に把握し、指導の個別化を徹底する。 ・月～木：ICTドリルによる反復学習（定着） ・金：週単位の習熟度テスト（評価と補習） ■学ぶ意欲の向上と知識・技能の定着「まなびチャレンジ」 試験週間最終日の「まなびチャレンジ」を継続し、自ら学習計画を立て、最適な方法を選択する「自己調整学習」の定着を目指す。生徒の主体性を引き出しつつ、個々の習熟度に応じた学びを支援することで、基礎的・基本的な知識・技能のポトムアップを図る。 ■自立した学び手の育成「マイプラン学習」 各教科で年間1単元実施する「マイプラン学習」を継続する。「自立した学び手の育成」と「基礎的・基本的な知識・技能の習得」を両立させ、個別最適な学びを充実させることで、すべての子どもの可能性を最大限に引き出す。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■総合的な学習の時間「まなびクエスト」の充実 「ローカル」郷土「浦崎」の生活と自然から、「グローバル」国際協働学習を通して、本物の社会に当事者として向き合う学びの充実を図る。 ・1年生「海の森プロジェクト」 ・2年生「生き方と働き方」「世界のとびらをひらく」 ・3年生「アートマイルプロジェクト」「人生の扉をひらく」 | <input type="checkbox"/> 生徒アンケート「『まなびクエスト』の時間では、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 | 80%以上 | 100% | 100% | 125 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートにおいて、肯定的な回答が100%（目標80%）という極めて高い結果を得た。「まなびクエスト」の時間における他者との対話が、単なる意見交換の枠を超え、自身の考えを深めたり多角的な視点を得たりする「対話的で深い学び」へと確実に繋がっている。 ○「何事にも一生懸命に取り組む学校」については、92%の生徒が、学校全体の取り組み姿勢を肯定的に捉えている。一人ひとりが主体性を発揮できる教育課程の編成が、生徒の自己肯定感を高め、学校生活への活力を生み出す好循環を作り出した。 ○98%もの生徒が自身の在り方や生き方を見つめる機会を得たと実感しており、特別授業での体験や対話が、生徒一人一人の内に深く届き、将来を見据えて今を生きる意欲の向上に直結した。「一生懸命に取り組む校風」に加え、自分の未来を真剣に考える「内省的な力」が備わったことは大きな成果である。この高い意欲を維持し、変化の激しい社会をたくましく生き抜く力の育成を継続していく。 | 10 | 0 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が高いのは良いが、問題がないのかといった検討も引き続き必要ではないか。 ・とても良い経験をさせていたでいて。引き続き色んなことに触れ、視野を広げてほしい。 ・子供たちが自ら進んで考え、行動できるようになっている。特別授業等で生徒たちがいろいろ体験ができていたのでこれからも続けてほしい。 ・「まなびクエスト」の取組が良いと思う。ぜひ継続してほしい。 ・色々なことを皆で協力して全力で取り組むことができる学校・生徒であってほしいと思う。 ・生徒による自治活動について、生徒の個性を尊重し、良い結果に結びついている。 ・「ローカル」郷土浦崎で「海の森プロジェクト」も壮大で良いが、生活に密着したことなど身近なことを学んでも良いのではないかと。 ・達成度が高く大変良い結果だと思ふ。ただこの項目においては、目標値を100%にしたら良いのでは、と思う。 ・学校の取組は良い方向に向かっているのだから、ぜひこれらの取組を継続してほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ■総合的な学習の時間「まなびクエスト」の充実 「まなびクエスト」を核としたカリキュラム・マネジメントを推進し、学びの充実と業務の最適化を同時に図る。各教科で培った基礎的知識（個別最適な学び）を、総合的な学習での課題解決（協働的な学び）へ繋げる「学びの往還」を実現し、資質・能力を統合的に育成する。 ■生徒による自治活動の充実 各教科の学びや「まなびクエスト」をはじめ、教育活動全体において「生徒を主語にすることを一貫した理念に据える。教員が生徒の可能性を信じて委ねる文化を醸成し、生徒一人ひとりが自らの手で学校生活や学習を創り上げる自治活動の充実を図る。 ■特別授業「まなびスペシャル」の充実 各界の著名な講師を招く「まなびスペシャル」を継続し、自己の在り方や生き方を深く見つめ直す機会を充実させる。質の高い文化・芸術・スポーツに直接触れる体験を通して、未来を自分らしく豊かに生きるための感性を養い、生徒の生涯にわたるウェルビーイングの向上を図る。 ・実施領域：スポーツ、文化・芸術、国際平和 ・特別授業の問い：「なぜ学ぶのか」「生きるとは」 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ■特別授業「まなびスペシャル」の充実 各界の著名な講師との出会いで社会を意識し、自らの生き方を見つめる学びの充実を図る。 ・ゲストティーチャー 小林紀子バレエシアター（文化芸術） 広島サンダース（スポーツ） 廣中正樹氏（世界平和） | <input type="checkbox"/> 生徒アンケート「特別授業では、自分自身を見つめたり、これからの自分自身の在り方や生き方を考えたりすることができましたか。」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 | 80%以上 | 91% | 98% | 123 | A | | 10 | 0 | 0 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------------|--|--|------|-----|-----|----|---|---|---|---|---|---|---|
| 信頼される学校づくり | 子どもを主語に時を刻む組織風土の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ■「学校が楽しい」と実感できる学校づくり 生徒が「自分らしくいられる」「挑戦できる」「つながりを感じられる」学びの場を、生徒とともに創り上げる。 ■秩序と活力のある教職員風土の醸成 生徒の健やかな成長と学びを支えるため、基本理念に基づいた秩序ある組織運営と、互いの専門性を尊重しながら意欲的に取り組む教職員風土づくりを推進する。 ■業務改善・働き方改革の推進 教職員のワークライフバランスの実現と、より豊かな教育活動の推進の両立を図ることを目指す。 ・業務の精選と見直し ・業務分担の適正化とチームでの支援体制 ・教職員の意識改革 | <input type="checkbox"/> 生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的な回答をした生徒の割合 | 100% | 77% | 80% | 80 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒が8割となったことは、本校の教育活動が一定の成果を得ていると捉えるが、残る2割の生徒への支援が今後の喫緊の課題である。浦崎中学校が掲げる「自立した学び手」の育成は、学校が安心してできる場所であってこそ成り立つ。100%という目標は譲らず、一人ひとりの小さな困り感を見逃さないきめ細やかな伴走支援と、多様な個性が尊重される集団づくりを強化する。すべての生徒が「明日も行きたい」と思える学校を目指し、家庭・地域とも連携を深めて取り組んでいく。 ○学校教育目標の具現化に向け、教職員の参画意識が100%に達したことは成果である。生徒の主体性を引き出すための「授業改善」や「特別授業の充実」に全員で取り組んだことが、生徒の自己肯定感向上という目に見える成果を生み出した。教職員自らが主体的に動く姿が、生徒の「自立した学び」のモデルとなっており、学校全体の教育力が底上げされている。 ○時間外勤務45時間以下（月ごと）の達成率教職員の勤務時間縮減が進み、目標を上回る65%を達成した。時間外勤務削減により生み出された余力が、生徒へのきめ細やかな伴走支援や授業準備に充てられ、教育活動全体の活性化に繋がっている。 | 9 | 0 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いだけでは、よく分からない。 ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の達成率は100%になるよう指導をお願いしたい。 ・達成値には届いていないが、昨年度より改善してきている。2割の生徒への支援と、何が原因なのか検討すること対策も必要。全員が楽しく思える学校づくりを。 ・生徒に寄り添う細やかな指導はできていると思うので継続してほしい。 ・教職員アンケートは当然の結果だが、継続してほしい。ただ、この項目の目標値は100%ではないか。 ・浦崎という少ない人数だからこそ一人一人を十分に見ていただけるので安心している。 ・先生方の働き方改革によって部活動が今後どのようにしていくのが気になる。 ・土日の部活動練習はなくてもよいと思うが、部活動自体をいずれば地域に移行することに関して、よく検討していただきたい。 ・働き方改革を進めながら、学校変革も同時に進めてもらいたい。 ・働き方改革の推進は就業意欲にもつながることなので、引き続き勤務時間縮減に取り組んでほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ■「学校が楽しい」と実感できる学校づくり 信頼される学校の最上位目標に「楽しい学校」を掲げ、あらゆる教育活動を通じて、全生徒が登校の喜びを実感できる環境を構築する。定期的なアンケートによる多角的な状況把握に努めるとともに、個別の伴走・支援を充実させることで、誰一人取り残さない「居場所のある学校づくり」を推進する。 ■秩序と活力のある教職員風土の醸成 「すべての子どもは有能な学び手である」という理念を全教職員で共有し、生徒を主語とした教育活動を推進する。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させたカリキュラムの構築を通じ、子どもたちの変容に教職員としての使命感を見出し、生徒と共に学び続ける活力ある組織風土を醸成する。 ■業務改善・働き方改革の推進 月間の時間外勤務45時間以下の職員割合「70%以上」を目標に掲げる。毎週水曜日の5時間授業に伴う会議設定、部活動休養日、定時退校日の遵守を徹底する。あわせて「業務の平準化」と進捗管理の可視化を進め、チーム全体で見通しを持った効率的な業務遂行を実現する。 |
| | | <input type="checkbox"/> 時間外勤務が4.5時間以下（月）である教職員の割合 | 60%以上 | 52% | 64% | 107 | A | | 10 | 0 | 0 | | | |

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 B：80≦（ほぼ達成）＜100
 C：60≦（もう少し）＜80
 D：（できていない）＜60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。